

「受賞者の声」

テーマ 「職業能力開発の実践」

副題 「高度・先端ものづくり分野における離職者訓練コース開設及び
グループワークによる新規総合課題の実施と検証」

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構群馬支部

群馬職業能力開発促進センター 内村 幸生

この度は、「高齢・障害・求職者雇用支援機構理事長賞」をいただき誠にありがとうございます。大変名誉のある賞を賜り、驚きとともに心から嬉しく思っております。また本論文を執筆するのにあたって、多大なご支援いただいた関係者の皆様にこの場をもってあらためて感謝申し上げます。

近年、生産システムのネットワーク化が進み、装置メーカーの設計担当者や生産設備管理業務に関わるお客様からサーバーを管理するシステムエンジニアや生産システムを管理する仕事の範囲が広がり、幅広い技術が要求されているといった声を耳にします。

群馬職業能力開発促進センターでは、生産現場の多様化する人材ニーズに対応した新たな訓練コースの設置を検討し、平成26年9月に当センターで離職者訓練コース「スマート制御システム科」をスタートしました。

また節電の取り組みにおいて、従来の空調、照明、生産設備などの機器使用の抑制だけでは目標値に到達できないという声があり、EMS（エネルギーマネジメントシステム）を導入する企業が増えています。「電力の見える化」によって詳細な電力使用状況を把握し、デマンドコントロールが可能になりピーク電力を抑え契約料金低減につなげることができます。企業が抱えている問題を総合課題のテーマとし、グループワークで訓練効果の検証を行いました。短期間で様々なカリキュラムを詰め込んだため、「これだけの内容を6ヶ月で行うのは難しいのでは？」といった声もありましたが、総合課題により訓練目標が明確になり、訓練生自身が主体的に考え積極的に訓練に取り組むことができたと思います。

また訓練が仕事理解につながり、早期の就職につながったという成果もみられました。

今後も受講者が就職活動をするのにあたって、より有意義な訓練になるよう考え努力していく所存です。